

芦屋ゆかりのスポーツ人物像⑩

ジョー・クレーン

日本ゴルフ界をリードした英国人



晩年のクレーン兄弟：ジョー（左）、兄ハリー（右）於：鳴尾 GC（神戸市文書館蔵）

横浜生まれで神戸育ち、兄弟で芦屋市松浜町に住み、後半生はゴルフをすると共にコースの設計やルール解釈に生涯を捧げた。戦後は大阪で貿易商社を経営し、“Thank you”の代わりに「おおきに！」も軽く口を突いて出た。こんな英国人スポーツマンがいた。Joseph Ernest Crane（ジョセフ・アーネスト・クレーン）、通称ジョーが、その人だった。

●ゴルフ先進地

日本のゴルフ発祥地は六甲山だった。神戸の茶貿易商 A.H グループが、1901（明治 34）年に造った 4 ホールのプライベート・コースが、それだった。2 年後、これを拡充・組織化して神戸ゴルフ倶楽部（神戸 GC）が誕生した。だが、冬でもプレーがしたいと W. J. ロビンソン（神戸 GC 会員）が、1904（明治 37）年、海沿いの横屋ゴルフ・アソシエーション（現魚崎中学付近）を造った。この 2 番目の横屋 GA が移転し、鳴尾ゴルフ・アソシエーション（鳴尾 GA）となり、初めて日本人が 30 名あまり入会。ここが「関西のゴルフファースト地」となった。ここ鳴尾 GA は借地で、所有者・鈴木商店（現、双日）から返却の声がかかり解散する。その後 1920 年初夏、鈴木商店や外国人のゴルフ好きが、この跡地を利用して立ち上げたのが、鳴尾ゴルフ倶楽部（鳴尾 GC）だった。

●八面六臂の活躍

1923（大正 12）年、鳴尾 GC にとって初の大会・クラブ選手権競技会を開催。ジョーは決勝で敗れ準優勝に終わっている。また、神戸 GC との対抗戦では、兄（次兄）ボブと組んで鳴尾チームの勝利（8-2）に貢献している。

翌年には 18 ホール・フルコースが完成。ジョーと西村貴一（神戸の老舗旅館主）とで設計し、毎日工事に立ち会ってのことだった。

また、クラブの委員に選ばれたジョーは、翌年の総会に向けて本場スコットランドのセント・アンドリュース・クラブをモデルに定款作りも担当した。

さらには、臨時総会でジョー、エブラム（ジョーの親友）等 4 人が、クラブハウス建設委員に選出され、1925（大正 14）年クラブハウスを完成させた。緑のゴルフコースと白いクラブハウスがセットになった風景は、近隣住民に「いきなり外国がやって来た」ような驚きを与えたという。



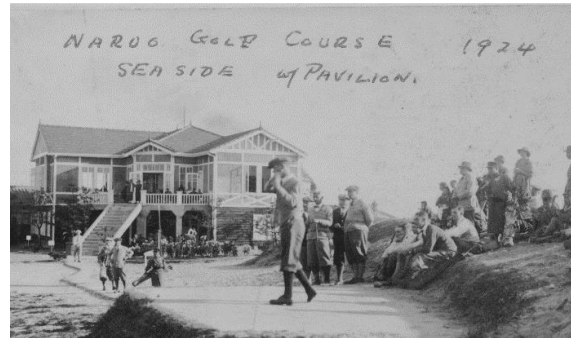
兄ボブ（左 1 人目）、親友エブラム（右 1 人目）：鳴尾 GC（浜コース）にて

●戦争への足音

だが、1928（昭和 3）年の暮になって状況は一変する。当時、キャプテンだった兄（長兄）ハリー宛に内容証明付きの郵便物が届き、「半年後に南側 9 ホール部分の土地を返還されたし」との文面だった。2 年後の年の暮、川西航空機は鳴尾 GC の南側へ本社と工場を移転。

1931（昭和 6）年の秋、関東軍が満州事変を起こす。遠い異国の話と思っていたジョーたちも、間もなく「15 年戦争」の足音を聞くようになる。

残りの 9 ホールも盤石ではなかった。鳴尾 GC の土地所有権は、鈴木商店から 2 転 3 転、1939（昭和 14）年 6 月末、ついに「本年 10 月末で明渡し」を求められた。川西航空機工場のさらなる拡張のためだった。ついに来るものが来てしまった。創立以来 19 年 6 ヶ月にわたる様々な思い出が去就する中、9 月末、最後のコンペ「サヨナラ競技会」を開催。コンペの後、総勢 70 名で記念撮影を行った。だが、記念撮影に間に合わなかった人々もいた。それは、名残りを惜しみ真っ暗になるまでプレーを続けたからだだった。



鳴尾ゴルフ倶楽部：1 番ティーグラウンド（手書き 1924 は、1925 年の間違い）奥はクラブハウス（建設委員：ジョー、エブラム等）（神戸市文書館蔵）

●鳴尾から猪名川へ

1929（昭和 4）年の始め、新しいゴルフコースを求め、用地探しが始まった。ジョーの親友エブラムは毎週末、愛車オースチンにジョーたちを乗せ候補地へ向かった。姫路や三木、三田も検討したが、神戸はともかく大阪からは遠過ぎた。北摂方面に変更し、伊丹、川西池田、能勢も見て廻った。結局、能勢電鉄・畦野（うねの）駅から西約 1 km の辺りに決定。川辺郡東谷村だった。交通機関は、梅田から阪急宝塚線・川西能勢口駅で能勢電鉄に乗換え、9 つ目の山下駅。駅から徒歩 15 分。当時、大阪から 1 時間 40 分、神戸から 2 時間。それぞれ、何とか満足の行く場所だった。大阪や神戸の都心から、この時間・距離で総面積およそ 15 万坪（495,000 m²）を買収した。

●コースの設計

ジョーは、自然の地形を「あるがまま」に受容れたコース造りを行うことを自負している。すなわち、土量移動量の少なさが「あるがまま」となる。ジョーが設計した鳴尾 GC は「世界のコース、トップ 100 選」に他 2 コースと共に選出されている。戦後だが、1967（昭和 42）年 Big3（A. パーマー、G. プレーヤー、J. ニクラウス）が、エキジビションマッチを行ったのもその証拠である。

●ゴルフ連盟の創設

1924（大正 13）年、日本ゴルフ協会が結成される。この時の発起人会には、関西から舞子、甲南、鳴尾（西村貴一）、そして神戸の計 4 クラブが出席。関東からは 3 クラブ。関西は歴史や伝統、クラブ数からいっても関東以上の発言力を持っていた。その 2 年後の 1926（大正 15）年 10 月、関西ゴルフ連盟が誕生する。この時ジョーが骨を折っている。案内状の送付、会場（神戸オリエンタル・ホテル）の手配、定款や細則の草案（英文）などの準備。そして、代表者会議には、神戸、宝塚、舞子、甲南、茨木、京都、鳴尾の各クラブが揃った。チェアマン：南郷三郎、名誉書記：ジョー、名誉会計：広岡久右衛門らが選ばれ関西連盟を発足させた。これは日本ゴルフ協会に次いで 2 番目の統括組織だった。ちなみに関東は 8 年も遅れた。

●ルール解釈

国内初期のルールブック、『ゴルフの規則』（11 cm × 8 cm）には、翻訳者として「J. クレーン、西村貴一 共訳」とあり、開くと「日本ゴルフの開祖 A.H. グループ並に日本第二番目のゴルフ場の開祖 W. J. ロビンソン両氏の霊にこの書を捧げます。1931 年 9 月 訳者」と記されている。ゴルフの規則は、英国の「ルールブック」を翻訳するとともに解釈する必要がある。このような役割は、ジョーにとって最も面目躍如であった。

戦後、ジョーは日本ゴルフ協会・規則委員としてルール改訂に参画し、80 歳過ぎまで委員を続けた。様々な委員会があるが、規則委員会の会合が最も長時間で知られていた。ジョーは欠かさず上京し、出席していた。それを彼は、「Noblesse' oblige ノブレス・オブリージュ」（上位者の社会的義務）を果たしただけと言う。

●敗戦と復興

鳴尾・浜コースは、1939（昭和 14）年 10 月末日を以って軍需工場・川西航空機へ明け渡された。欧州では、この 2 ヶ月前の 9 月 1 日、ドイツ軍が突如ポーランドに侵攻、第 2 次世界大戦が始まっている。

日本国内では、英米語、そのカタカナ使用も厳禁となる。1943（昭和 18）年 9 月、「ゴルフ=打球」とされ、鳴尾 GC も「猪名川打球会」と改めさせられた。そして、多くの外国人が施設に抑留される中、ジョー等は免れたが、特高（特別高等警察）や憲兵の尾行は常時だった。

1945（昭和 20）年 8 月 15 日正午、玉音放送で敗戦が告げられ、日本国民に大きな虚脱感を与えた。一方、ジョーたちは早々と鳴尾 GC の幹部を訪ね、コースの復旧を呼びかけた。そして、ジョーら兄弟は、何度となく GHQ 神戸支部（神港ビル）に出向き、一日も早いコースの返還を働きかけた。こうして敗戦の日から数えて僅か 3 ヶ月半、コースは鳴尾 GC に返還された。これは、神戸ローンテニス・クラブ（1949）、神戸レガッタ & アスレチック倶楽部（1952）の返還と比べても非常に早く、クレーン兄弟の尽力を物語っている。

まだまだ食うや食わずの時代 1947（昭和 22）年 4 月、たった 3 ホールだが、復旧させ 3 ホールを 3 ラウンド廻りみんなで喜び合った。1949（昭和 24）年には 18 ホールを再開。全国でも 1 番早く復興したのではなかろうか。

●コース設計家ジョー

ジョーが設計したゴルフ場が全国に 26 ヶ所存在する。一人の設計者が創設したコース数では、日本国内でも 5 指に入るほど高名である。その証拠に鳴尾 GC が「世界のゴルフ場 100 選」に入っている。これら 3、4 コースは戦前の設計であるが、多くは戦後の高度成長期以降である。ゴルフ・ブームが到来し、コース設計を依頼されたジョーは、全国各地に出かけるようになる。それは 60 歳半ばを過ぎてからのことだった。

「チキンラーメン」で知られる日清食品の創業者・安藤百福が、ジョーの設計思想に惚れ込みコース設計を依頼。ジョーは多忙さと設計条件の厳しさゆえ難色を示したが、最後には安藤の熱意に絆（ほだ）されて承諾。人情の機微に厚いジョーの人柄が窺える。

元気だったジョーも 80 歳を越えるとハーフラウンド廻るのが精々で、時には「疲れた」と途中から車でクラブハウスへ戻ることもあった。

クレーン兄弟の末弟 Joseph Ernest Crane（ジョセフ・アーネスト・クレーン）は、1980（昭和 55）年 3 月 30 日 87 歳で天国に召された。葬儀は 4 月 1 日、神戸市中央区の神戸ユニオン教会に於いて行われた。ガンブリ牧師の司式によって営まれ、次の名士たちがジョーを語った。すなわち、関西国際委員会議長 P. A. カンパネラ、日本ゴルフ協会会長・乾 豊彦、西宮高原 GC 会長・伊藤恭一、鳴尾 GC キャプテン・植田成一郎。葬儀後、ジョーはクレーン家の人々が眠る神戸修法ヶ原、外国人墓地 11 区 8・9 番に葬られた。墓碑には「Joseph Ernest Crane 1892. 5. 27~1980. 3. 30 Time has touched him gently and He sleeps.」と刻まれている。

（文責：NPO 神戸居留地研究会理事 高木應光）



ジョーの墓：神戸外国人墓地内（写真：高木應光）

